

要 望 書

平成二十五年七月二十四日、「がんばろう！ 東北」をテーマにフォーラムを開催し、次の通り、要望事項を採択いたしました。
善処くださいますようお願いいたします。

平成二十五年 八月 日

「東北の社会資本整備を考える会」

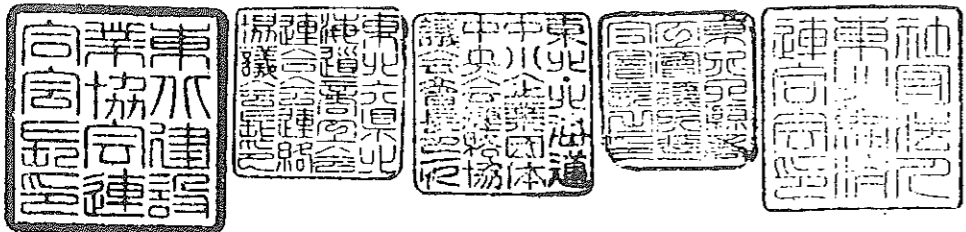
(一社)東北経済連合会会長 高橋 宏明

東北六県商工会議所連合会会長 鎌田 宏

東北・北海道中小企業団体中央会
連絡協議会会長 今野 敦之

東北六県・北海道商工会連合会
連絡協議会会長 轡田 倉治

東北建設業協会連合会会長 佐藤 博俊



東日本大震災から、二年以上の月日が流れました。

現在もなお、一日も早い被災地の復興を目指し、関係者の日夜の努力は続いております。復興道路などの基幹事業については順調に進捗し、いよいよ今年は、まちづくりも本格的に工事が進行し、目に見える形で復興が実感できる年になりつつあります。この場を借りて、日頃より復旧・復興事業に携わっておられる方々のご努力に感謝を申し上げます。そして、更なる加速化へ向け、私たちは今後も努力をしていかなければなりません。

また、今回の災害では、三陸自動車道が「命の道」として大きな役割を果たしました。また、避難通路や質的に強化した河川堤防が多く、命を守り、湾口防波堤が津波の衝撃を緩和して街の被害を軽減させました。私たちは、今後来るかもしれない首都直下型地震等の大災害に備えるためにも、この大震災で得られた数々の教訓が風化しないよう、常に皆さんの注意を喚起し、また、次の世代に伝承する役割を持っております。

一方では、自動車や半導体装置産業の集積が進みつつあるなど、東北経済活性化の動きが加速化しております。東北全体の復興を目指すためにも、産業の活性化を持続的に図るとともに、国土を強化し景気を下支えするための公共投資がこれからも必須であります。

よって、次に述べる事項について、広くご理解を求めます。

一、復興事業を進めていくにあたり、人手不足や資材不足などの問題を乗り越えながら、関係団体共々、被災地の復興をさらに加速させること。

一、この大震災で得られた教訓が風化しないよう伝承するとともに、今後も社会資本整備の役割について理解促進を図ること。

一、東北全体の経済活動が活発になるよう、高規格幹線道路など必要な社会資本整備の推進を強く働きかけること。

平成二十五年七月二十四日

「東北の社会資本整備を考える会」